



特定非営利活動法人

発行者 伊部和徳

平城宮跡サポートネットワーク / 会報

奈良市二条町二丁目9番1号 奈良文化財研究所内

〒630 8577 電話 0742 - 34 - 7713

E mail : npoheijyo@yahoo.co.jp

http://www.HEIJYONET.com

第5回通常総会開催 / 合い言葉は

「平城宮跡をみんなの手で支えよう！」

平成18年度通常総会は、5月21日(日)平城宮跡資料館講堂で「春の特別講演会」に引き続き開催されました。以下は、理事長報告と18年度事業計画の概要です。

平成17年度活動の成果と総括

NPO法人 平城宮跡サポートネットワーク

理事長 伊部和徳

平成13年当法人設立以来、会員各位のボランティア活動と奈良文化財研究所の支援を受け、外部からも見える組織に育って来ました。

17年度は事業の拡大と5年後の遷都1300年記念事業を念頭に、理事枠を拡大して副理事長及び各部会担当を複数制としました。

また、奈文研の田辺征夫所長、川越俊一副所長(都城発掘調査部長)に顧問をお願いし、より強固な関係と信頼できる組織づくりを目指しました。

更に具体的な行動指針として「中長期ビジョン」を

策定し、当面の目標を2010年の遷都1300年記念事業を目指して磐石な組織を確立し、



平城宮跡の中核的組織となることを目標にしました。

環境保全事業としてのクリーン活動は奈文研の除草作業やボランティア活動による立ち木の枝おろしなどと相まって周辺住民から「平城宮跡は昔と比べてきれいになった」と評判になっています。春のクリーン・フェスティバルは益々盛大になり、市民運動の成功例として地元行政からも評価されています。

教育・文化事業としては、小学校の「出前拓本教室」

は大変な人気で、奈良市教委の教員研修や公民館活動にも取り上げられ宮跡フィールドワークと共に好評を博しています。

広報・企画事業の会報「天平のひろば」の特集「平城宮跡の野草・野鳥・昆虫」などは宮跡ファンや近隣の人々にとって待ちどおしい記事となっています。

大極殿復原工事の特別公開は回を重ねるたびに市民の関心が高まり、2月記念事業の「実施基本計画」が発表され、今年初めて「平城遷都祭」が宮跡の中央部で開催されました。私たちNPOの周辺環境と宮跡に対する注目は日毎に高まっています。

平成18年度事業計画の方針

「中長期ビジョン」の基本理念である *平城宮跡の歴史的・文化的価値の維持 *訪れる人の目的に応じた最適な空間を提供する *その歴史的・文化遺産の保全、継承に寄与する事を実現する為、更に効果的な環境保全事業、広報・企画事業、そして教育・文化事業を積極的に推進し「平城宮跡をみんなの手で支える」の合い言葉の浸透を図る。

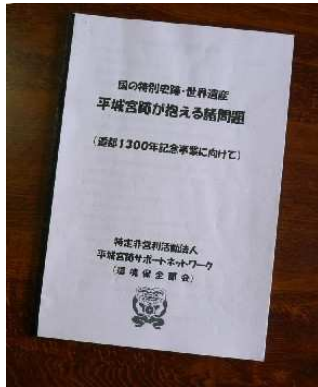
18年度の重点施策

1. 組織の強化を図るため事務局体制の整備
 2. 正会員・賛助会員の増強
 3. 全員参加型の事業を展開するための周知徹底
 4. 平城宮跡歴史講座(講演会)などの事業を通じ「平城宮跡ファン」を拡大
 5. 周辺地域において同種の事業活動をしている他団体・組織との交流、提携
 6. 財政基盤の強化
- などを強力に推進する。

平成17年度各部会活動報告

環境保全部会

- 1 クリーン活動の実施
 - * 平城宮跡内および周辺の清掃活動・環境保全活動
- 2 「平城宮跡が抱える諸問題」(報告書)を関連行政に配布・説明
- 3 第3回平城宮跡クリーンフェスティバル 4月17日
約450名参加
- 4 奈良県ふるさと美化運動「2005クリーンアップならキャンペーン」に参加
9月4日
- 5 奈良県道路サポートボランティア運動に参加(年4回)
- 6 その他、日常的に環境保全・美化活動など、平城宮跡を積極的に支援



広報・企画部会

- 1 会報「天平のひろば」発行
15号(5月) 16号(8月) 17号(11月)
18号(06年2月) 特集:平城宮跡の虫
- 2 イベント開催案内チラシ作成と広報 (7件)
- 3 ホームページ更新
 - * イベント案内、開催状況の報告掲載
 - * 会報「天平のひろば」バックナンバーをPDFで掲載
 - * 掲示板「今日の平城宮跡」に投稿 120回
 - * 特集:鬼瓦シリーズ
 - * ホームページアクセス1万回達成記念品贈呈
- 4 その他広報活動
 - * 一般イベント紹介ホームページに掲載
関西元気文化圏 奈良県ボランティアネット 近鉄ケーブル 近鉄沿線百科 奈良リビングなど



- * 関連ホームページからのリンク
京都学芸出版社 奈良21世紀フォーラム
赤い鳥(スタンプラリー紹介)
- * 第22回平城京新春マラソン大会に協力
コースに啓蒙用旗を設置 1月8日
- * 生涯学習フェスタ2006(奈良市教委主催) 学びの博覧会に出展 1月29日

教育・文化部会

- 1 歴史講演会
 - * 「高松塚古墳と平城京」 5月15日
講師:奈良大学 白石太一郎教授
 - * 「日本古代の墓誌」 10月16日
講師:奈良大学 東野治之教授
- 2 拓本づくり教室 古代瓦の解説と資料館古代瓦の見学
 - * 夏休み児童対象拓本教室 8月20日
 - * 奈良市生涯学習センター 8月27日
 - * 奈良市小、中学校教諭 8月24日
 - * 平城宮跡解説ボランティア 1月26日
 - * 奈良市青少年児童会館歴史散歩教室 2月26日
 - * 一般拓本づくり教室 3月21日
- 3 平城宮跡フィールドワーク
 - * 奈良市小、中学校教諭 8月24日
 - * 奈良市生涯学習センター 8月26日
 - * 西大寺北小学校 10月28日
 - * 相和小学校 11月8日
- 4 出前拓本教室と平城宮跡歴史の話
 - * 西大寺北小学校 10月14日
 - * 富雄北小学校 10月17日
 - * 相和小学校 11月17日
 - * 大安寺小学校 12月16日
- 5 その他
 - * 平城宮跡スタンプラリーと和風づくり 6月5日
 - * 万葉集勉強会 12回開催



平成18年度事業計画

環境保全部会

- 1 「平城宮跡の抱える諸問題」＜平城宮跡内の問題点や現状報告書＞についてのフォローアップ及び追加項目の検討
- 2 平城宮跡美化推進の啓蒙を継続する
- 3 平城宮跡内「解説案内板」の増設、「標識」の改善、散策道の整備・安全対策の検討
- 4 毎月1回の平城宮跡クリーン活動の実施
- 5 「平城宮跡市民クリーンデー」の実施
- 6 本年度の主たるイベント
「第4回平城宮跡クリーンフェスティバル」
「県ふるさと美化運動」に参加
「県道路サポートボランティア活動」に参加

広報・企画部会

- 1 会報「天平のひろば」の発行 年4回
- 2 主催事業・イベントの案内と広報

*文化庁提唱「関西元気文化圏事業」に登録

*一般イベント紹介ホームページに登録

- 3 ホームページの更新
* イベント案内・実施状況の掲載
* 掲示板「今日の平城宮跡」に投稿
* アクセス回数増進活動 目標 15000回
- 4 その他 平城宮跡紹介冊子作成

教育・文化部会

- 1 万葉集の学習会を毎月1回開催
- 2 春秋2回の歴史講演会開催に加え、新たに2回程度講演会を開催
- 3 歴史学習出前教室の実施
- 4 歴史学習および古代瓦の拓本教室の開催
- 5 平城宮跡フィールド・ウオーク学習
- 6 木簡の作成教室の開催
- 7 平城京カルタの研究およびその製作

平城宮跡サポートネットワーク 平成18(2006)年度行事計画

平成18年	4月16日	第4回平城宮跡 クリーンフェスティバル
	5月21日	春の特別講演会
	5月28日	平城宮跡 市民クリーンデー
	6月中旬	平城宮跡 木簡作り教室
	7月中旬	平城宮跡歴史講演会
	8月中旬	市教職者対象 平城宮跡学習
	8月中旬	平城宮跡拓本作り教室
	9月中旬	奈良県ふるさと美化運動 清掃活動
	10月中旬	秋の特別講演会
	11月初旬	平城宮跡 体験学習
平成19年	1月中旬	平城宮跡歴史講演会
	3月下旬	平城宮跡拓本作り教室
	年4回	奈良県道路サポート・ボランティア 清掃活動
	随時	平城宮跡 歴史学習出前教室

世界遺産・国の特別史跡・平城宮跡ひとくちマナー

ここはバーベキューにもってこいの場所だ！ においも煙も近所迷惑にはならないしね。でも、ちょっと待って。ここは国の特別史跡のど真ん中、火気取り扱いが厳禁なんです。

「平城京の暮らし 下級官吏の日々」

奈良大学 寺崎保広教授

平城京は、現代の皇居と官庁街にあたる平城宮、それに仕える官人（役人）とその家族、一般庶民の居住地などで構成されていました。

平城京の人口は、20万人から10万人と推定されていますが、私自身はさらに少ない5~6万人だったと推測しています。

官人の位階は最上級の「正一位」から最下位の「少初位」まで30階の序列がありました。従五位以上がい



わゆる貴族階級で約150人、それ以下の下級役人は8千人以上いたとみられます。貴族と下級役人は待遇などに雲泥の差があり、例えば、年収を現代の金額に概算すると、最高の正一位が約3億円、最低の少初位下が60万円でした。貴族階級最低ランクの従五位下の年収が1913万円なのに対し、すぐ下の正六位上が165万円、差は10倍以上。貴族とそれ以下の格差は大変なものでした。

こうした官人の暮らしを知る文献史料としては、奈良時代の正史である『続日本紀』、法令集の『令義解』、『延喜式』、文学作品の『万葉集』『懐風藻』『風土記』などがあります。しかし、これらの史料には貴族階級の従五位以上のことしか記されていません。

下級役人たちの暮らしをうかがい知るには、平城宮跡で数多く発掘された「木簡」や「正倉院文書」に頼るしかありません。木簡は「捨てられたメモ札」、正倉院文書は「倉庫（正倉）に積み上げられたガラクタ」といいいいのですが、下級役人の暮らしのぶりがわかる史料としては実に貴重なものです。

木簡には、下級役人の氏名、年齢、位階・官職、本貫地（出身地）からその役人の勤務評定まで記されたものがあります。山背国（京都府）出身の29歳の役人は年間の勤務日数が「日勤320日、夜勤185日、合計505日」です。過重な勤務をしながら、給

与は少なく生活は苦しい。一生コツコツと働いても、従五位下以上に昇進するのは至難の技でした。

私の好きな万葉集に『この頃のわが恋力記し集め功くわうに申さば五位の冠かがぶり』（巻大16）という歌があります。恋愛歌ですが、「あなたへの恋い心を記録として集めて勤務評定してもらったならば、五位の冠をもらうほど」と例えています。

正倉院文書は東大寺写経所という役所で作られた文書で、写経生の勤務、紙や筆・墨の支給、給与・食事給与を詳しく記した事務帳簿です。下級役人のための帳簿ですから、中央官庁で廃棄処分された紙の裏を利用したものが大半です。

こんな欠勤届けがあります。「私こと、節部省史生の正八位上、辛廣濱は今月7日、下痢をしまして出勤できないので、お届けします。天平2年9月10日。このように本人や妻子・父母の病気や死亡、葬祭、「仕事がひと段落したので」「衣服の洗濯」などの理由で欠勤届けを出しています。本人の病欠の原因としては、下痢・赤痢などが一番多く、長時間座ったままの写経で足の痛みが出る職業病、皮膚病などが続いています。

「写経するための紙が足りない。紙の補充があるまで業務を休んではいかがでしょうか」「支給された衣服が破れたり、汚れて洗ってもなお臭い。新しいものを支給してほしい」「毎月5日間の休暇がほしい」「食事の中身を改善して」「座りづめで胸が痛み足がしびれる。3日に1回は酒を支給して」などです。中には下級役人が高利の借金を繰り返した3年間の生々しい記録も残っています。

（文責・天平のひろば編集部）

オオヨシキリ



宮跡の夏を最もにぎやかに謳歌している鳥はなんといってもオオヨシキリです。青々と伸びた葦原で行行子、ギョギョシと大きな声で縄張りを主張するのは子育てが始まったからです。

寄稿：宮跡の野鳥を愛するつどい

平城宮跡 夏の虫たち

大阪産業大学人間環境学部講師 谷 幸三

夏を呼ぶ虫で一番親しまれているのがセミとトンボです。平城宮跡でよく見かける種を紹介します。

クマゼミ (セミ科)

奈良県内には、13種のセミが確認されていますが、

朝の早くからシャア・シャアとやかましく鳴き、体長40~48mmもあり日本最大で子どもたちにも一番人気のあるのがクマゼミです。体は黒色で光沢がり、の腹弁は橙黄色で美しくブラジャー形をしています。

さらに前翅・後翅とも無色透明で美しいです。

今までは北陸から関東南部までが分布の北限とされ、太平洋側では神奈川県・城ヶ島付近が北限とみられていましたが、東京周辺でも見られるようになったのは、地球温暖化の影響であると言われています。成虫は7月中旬から9月上旬まで見られるので鳴く様子を観察してみましょう。

鳴くのは だけで、同じ種の鳴き声の周波数の音しか聞こえないので、他の種の鳴き声には反応しません。口ばしを樹木に差し込んで鳴きます。

幼虫は地中に潜って樹木の根の液を吸って、約5年間すごすと言われていたのですが、詳しくは解明されていません。日没の1時間半ごろに樹木の下を見ると地上に出てきた幼虫を発見できます。羽化は19時から21時にかけて始まり、みずみずしい翅がのびきるまでに約30分から90分かかります。飛べる状態になるには約10時間かかります。抜け殻だけで、種がわかり、
・ もわかりますので、抜け殻を回収すれば発生状態がわかります。調べてみましょう。



ウスバキトンボ (トンボ科)

お盆のころ都会の公園や広場、野原や水田の上空に群れをなして飛んでいる橙黄色のトンボをアカトンボ(アカネ属)と思っている人が多いですが、実はウスバキトンボで、アカトンボの仲間ではありません。平城宮跡でも群れをなして飛んでいるのを見かけます。赤道を中心に両半球の熱帯・亜熱帯に広く分布し、日本では北海道・本州・四国・九州に分布します。卵や幼虫はきわめて成長が速く、夏の高温期には、産卵してから5日以内にふ化します。



幼虫期間は25日から30日で羽化します。羽化してから1週間ほどで生殖が可能になり、交尾・産卵を行い約1ヵ月半で世代をくり返します。

国内では秋から冬にかけて、卵・幼虫・成虫が死滅しますが、南方では1ヵ月半ごとに世代をくり返していますので、個体密度が過剰になり、毎年4月から5月ごろに季節風に乗った若い個体が大群で北上します。たどり着いた個体が7月には第2世代が羽化し、第3世代が8月下旬には膨大な数になって群飛し、さらに北方へ移動をくり返しますが冬になると死滅してしまいます。一方通行の移動を毎年くり返し国内では定着しません。

奈良県では、お盆の時に群飛するので、「ボントンボ」と呼ばれています。幼虫は汚れた水質に生息していて、平城宮跡では水溜りや小川・溝で幼虫を確認しています。抜け殻を探がしたり、羽化の様子や飛んでいる行動などを観察してみるのもなかなか楽しいものです。また、樹木の枝先で多数休んでいる姿をみることもできます。成熟した は水辺にもどり、ホバリングしながら飛び回る独立飛翔占有型のなわばりをもちます。 を見つけると追いかけて空中でとらえ、瞬時に連結交尾をします。

第4回クリーン・フェスティバル開催

都跡小学校マーチングバンドが特別出演！

恒例の市民行事となった「平城宮跡クリーン・フェスティバル」は4月16日午後1時、朱雀門前広場に集合して開催されました。

前日の天候が影響し、ガールスカウトなど子ども団体の出足が鈍りましたが一般市民、市シルバーセンターの皆さんなど約350名が参加されました。

開会セレモニーでは奈良文化財研究所の川越俊一副所長、奈良市の西本安博文化経済部長から挨拶と激励を受け、4班に分かれた参加者は地元、都跡小学校生徒45名が演奏する元気なマーチに送られて出発しました。



一週間前の日曜日は桜が満開、花見客が残した飲み物缶・ペットボトル・弁当ガラなど約3トンのゴミを1時間かけて拾い

集めました。

終了後は、毎回お楽しみの抽選によるグッズと参加記念品を手に賑やかに解散しました。

遷都1300年に向けて

大極殿正殿復原工事を一般公開

現在平城宮跡の北端で復原中の第一次大極殿正殿の第四次特別公開が主催文化庁、共催奈良県・奈良市で、4月28日・29日・30日の3日間開催されました。開催中は奈良市の遷都祭とも重なって多数の見学者で賑わいました。



また特別公開に合わせて記念講演会も開催されました。演題と講師は次ぎの通りです。「ヒノキと古代建築」

奈文研・年代学研究室長 光谷拓実氏、「宮大工と木の関わり」(株) 瀧川寺社建築・瀧川昭雄氏です。

今回も竹中大工道具館による古代の大工道具が展示されました。

第7回平城遷都祭

「吹け。古代の朱い風。」

第7回平城遷都祭が4月29日・30日の両日にわたって平城宮跡内で行なわれました。ゲージツ家 KUMA さんプロデュースの蚊帳製巨大キューブを並べたオブジェで、平城宮跡の壮大なスケールを味わえるイベント、奈良のうまいもんこだわりもんの出店、天平染め、天平行列などが行なわれました。NPO 平城宮跡サポートネットワークも協力を要請され、平城宮跡内の解説を目的としたブースを設け参加しました。



しかし期待した見学施設や史跡の歴史・考古学的なガイドの要望は少なく、協力のあり方として課題も残りました。

2010年遷都1300年記念事業が平城宮跡内で行なわれる予定ですが、今回の遷都祭を通じて諸々の課題が見えてきたのではないのでしょうか。

特定非営利活動法人

平城宮跡サポートネットワーク入会のご案内

皆様の知識や経験と想いを結集して平城宮跡の整備・保存・公開活動を支援するNPOに参加しませんか。

会員の種類と年会費

(1) 正会員 個人 3,000円 法人 10,000円

(2) 賛助会員 個人 3,000円 法人 10,000円

ご入会のお問い合わせは下記まで

〒630-8577 奈良市二条町2-9-1

奈良文化財研究所内

平城宮跡サポートネットワーク事務局

TEL / FAX : 0742 - 34 - 7713

E-mail : npohei jyo@yahoo.co.jp

天平の窓

5月のゴールデンウィークも終わり、資料館は修学旅行や遠足の生徒たちで賑わっています。平城宮跡の原っぱでは木や草も一段と緑が濃くなり鳥たちも飛び回っています。散策にいい季節です。

本井 建治